生徒と保護者のための
週刊
かわら版

編集文責
大庭

プリントの最終号とします
次号からは学校ＨＰで配信

本当にかわら版、長くお休みしました。生徒、保護者の皆さまに、散在する学校内の情報を少しでも整理しお伝えできればとの気持ちで始めた「かわら版」でした。

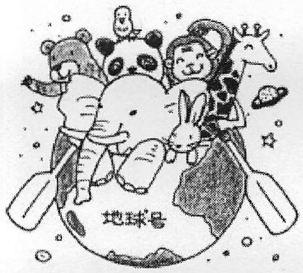
世の中の膨大な情報をどのようにつがみ、どのように取捨選択していくことができるか、おそらくこれからの社会に必要な能力だと思います。一方、かわら版を全校生徒に毎週、届ける意味は何があるのだろうと悩みました。紙の無駄使いでは？と指摘されないだろうか？

青少年赤十字の活動を30年続けてきて、本当に思うことは「掲示板の活用」の重要さです。その中にある情報を自分で見に行き、自分で行動することのできること、災害のあった時に避難所では、この「掲示板」が最大に活用されます。

最近、学校内の掲示板を整理しました。内容ごとに仕分けをし、古いものは撤去するような仕組みを作りつつあります。さらに、ある先生の発案で学年ごとの掲示板が設置されました。とても素晴らしいと思います。

そういうこともあり、今週号をもって、プリントとしての配布を思い切って停止します。そして、今後は、知り得る情報をできるだけ整理して、学校ＨＰに掲載させていただきます。

今週号の裏面にはｅプレップ２年生の生徒たちがＳＤＧｓの授業で取り組む活動の一環としてのプリントを印刷させていただきました。ぜひ、生徒の取り組みに賛同いただき、私たちのできることから始めてみたいものですね。



先見コーナー

10/16(水) ○中間考査（～18（金））
10/17(木) ○県高校演劇祭（～18(金)サザンホール）
10/19(土) ○中学生一日体験入学
10/20(日) ○開校記念日　○秋季情報処理技術者試験
10/21(月) ○中間考査（予備日）○学科朝会（プレ）
○２年修学旅行事前指導（１限体育館）
○火山アート祭（情報処理科・３Ｆギャラリー）
（～11/1 まで）
10/22(火) ○即位礼正殿の議　○定期演奏会（宝山ホール）
10/23(水) ○中高連絡会（本校会場）（～10/24）
10/24(木) ○２年学年朝会　○全国国語教育研究大会
○県高校新人柔道大会（鹿児島アリーナ～25）
10/25(金) ○成績伝票提出　○３年学年朝会
○２年就職受験希望調査書配布
○全国国語教育研究大会公開授業（本校・午後）
○就職面接会
10/26(土) ○一日体験入学　○土曜補習（３年普通・特）
○漢字検定
10/27(日) ○谷山ふるさと祭　○県短水路水泳記録会
10/28(月) ○教育相談週間（Ｂ校時）（～11/1 金）
○学科朝会（普通科）
10/29(火) ○吉野中学校出前授業（普通科・情報シス・）
10/31(木) ○情報処理競技大会（学科内）←日程変更されました。
11/02(土) ○進研模試（マーク）
11/03(日) ○進研模試（マーク）　○英語検定２次
○県高文連将棋新人大会（～10 日）
11/04(月) ○振替休日　○中学校保護者説明会（本校会場）

次のかわら版は10月25日（金）に発行予定です。
また，「清流」の掲載は不定期とします。

チャレンジ・ボード

○アジアン鹿児島
宝山ホール
10月19日(土)～20日(日)
○学生のための企業セミナー
10月25日（金）
ソーホー鹿児島
○スポＧＯＭＩ大会
10月26日（土）
市民文化ホール
○防災ポスターコンクール
締め切り10月31日（木）
○高校生文化大賞
作文・論文募集
産経新聞社主催
締め切り11月5日(火)
○校内文芸コンクール
締め切り11月8日（金）
○地震火山災害の軽減に貢献する鹿児島大学の観測調査研究発表
11月9日（土）鹿児島大学
○わくわく福祉交流フェア
11月10日(日)　かんまちあ
○環境フォト&投稿動画コンテスト
締め切り11月30日（土）
○国際協力講演会
12月15日（日）
県民交流センター
詳しくは1階、大鏡横のチャレンジボードで確認

清流

２０１５年、国連サミットで、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）が17項目設定され、２０３０年までにその目標を達成しようと決議された▼30年くらい前に日本赤十字社の派遣でネパールの山岳地帯を訪れたことがある。飲み水を確保するにも大変な地帯だ。見渡す限り、灯りひとつない初めて経験する真っ暗な世界、日本のような生活レベルにこの国がなるということはどういうことを意味するのだろうと、暗闇の中で考えた▼首都カトマンズは先進国から運ばれてきた燃やすことのできないペットボトルやポリ袋、トレイが街中にあふれていた。急激な文明？の侵入にごみ処理能力が追いついていない。街の中で一番多い店舗は便器を売る店舗だった。衛生面に少しずつ目が向けられ始めていた▼ホームステイ先（と言っても家畜小屋の隅）の子どもは足が不自由。「日本に連れて行って何とかしてほしい」と涙ながらに訴えられた。手持ちの少ないお金を手渡そうと思ったが、赤十字社に強く禁じられた。命だけは平等なはずであるが、そこにも格差を感じた▼この地球号が永遠に続くために、今生きる私たちができることは何があるのか。何かを始め、継続することが未来への責任である。